

施策評価シート 対象事業年度 令和 4 年度

政策	Ⅲ 環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	施策推進 責任者	企画調整室長・総務部長・港湾部長・建設部長
重点施策	3 にぎわい創出に向けた再開発の推進		
施策	4 うらおいと魅力のある港湾空間の形成		

政策Ⅲ：環境・にぎわい
重点施策3・施策4

1. PLAN(目的・展開内容)

※シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指す。

目的	サービスの対象者(誰のために)	地域住民、来訪者、就業者、船会社、港湾運送事業者、荷主など名古屋港に集うあらゆる人びと	意図(どういう状態にしたいのか)	ガーデンふ頭のイベント開催等により港湾空間の更なるにぎわいや魅力を創出するとともに、名古屋港水族館などのにぎわい施設を活用し、ときめきとやすらぎを感じ、親しまれ、みんなの夢がふくらむ港
	サービスの対象物(何を)	親しまれる施設(集客施設・運河など)やイベントなど 港湾のあらゆる機能への環境配慮や自然環境保全の取組		
展開	<p>(重点施策3) ガーデンふ頭では、「多くの人々を呼び込むにぎわいの創出」、「人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供」を基本方針として、民間事業者の資金とノウハウをいかした取組を進める。また、中川運河にぎわいゾーンの魅力向上に向けて、覆砂による底層環境の改善や水循環による水質改善などに取り組み、人々が水辺に親しむ機会の創出に努める。</p> <p>(施策4) ふれあい・交流拠点であるガーデンふ頭において、海の日名古屋みなと祭や船舶の一般公開等、年間を通じてさまざまなイベントを開催・支援するとともに、SNS等によるタイムリーな情報発信により、名古屋港の魅力向上・拡散の取組を進める。また、ガーデンふ頭の名古屋港水族館や、新舞子マリンパーク、富浜緑地の運動施設等の観光・にぎわい施設を最大限に活用し、港のにぎわいを継続的に創出する。 中川運河において、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導や、水循環による水質の改善など、運河再生に取り組みとともに、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を進め、都心部のにぎわいを港に誘導する。 港のにぎわい創出や観光振興、地域経済の活性化等を目的として設立された「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じ、クルーズ船社等へのセールスやクルーズ船寄港時の歓迎行事・観光案内を行う等、クルーズ船寄港増加に向けた取組を進める。 クルーズ船の受入れについては、旅客の利便性や安全性の確保を最優先に考え、より一層受入れ環境の充実・改善に取り組む。</p>			

2. DO(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

(1) 重点施策3

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	成果目標	4年度に取り組んだ内容	元年度	2年度	3年度	4年度	目標値 (5年度)	4年度 の状況	4年度実施事業に基づく評価結果			課題	5年度以降の取組方針		
					上段: 成果目標 目標値						遅れ	5年度以降の方向性				・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等	
					中段: 成果目標 実績値							継続	成果				コスト
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)												
重施 03 事01	ガーデンふ頭再開発の推進 (総合開発課)	ガーデンふ頭再開発の進捗状況 (全3工程) 【進行管理型】	①基本計画の策定(R1~) ②基本的な内容の具体化 ③事業者選定・事業化	民間事業者と意見交換を継続しつつ、社会経済情勢や感染症の影響により生活様式が大きく変化していることから、有識者会議を活用し、官民連携事例を参考に再開発の実現に向けた方向性の検討を進め、計画立案段階から開発主体の誘致までを行政と民間事業者が協働で行う新たな取組をとりまとめた。併せて、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組んだ。	1工程	1工程	2工程	2工程	3工程	遅れ	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	感染症の影響により、再開発の民間事業環境は厳しい状況下であり「遅れ」となったが、感染症の影響による生活様式などが変化している中でも再開発を着実に進めていけるようとりまとめた新たな取組に基づき事業化に向けて取り組んでいくことから、今後の成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。	新たな取組により再開発を推進していく必要がある。また、開発エリアの確保に向けて関係者との調整を進めていく必要がある。	計画立案段階から開発主体の誘致までを民間事業者と協働で行っていくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。		
					1工程	1工程	1工程	1工程									
					54,027千円	44,954千円	138,250千円	54,610千円								5年度完了	
重施 03 事02	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上 (金城・中川・南5区担当、環境担当)	中川運河覆砂進捗状況 (全4工程) 【進行管理型】	①現況調査(R1) ②設計(R2) ③工事着手(R3~) ④整備までの工程	老朽化した護岸の改良・補修を実施するとともに、プロムナード整備に着手した。また、東支線では運河を眺められる視点場の整備、底層改善に向けた覆砂を実施した。	1工程	2工程	3工程	3工程	4工程	順調	継続	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	中川運河にぎわいゾーンにおいて、良好な水環境の創出や回遊性の向上を図ることにより運河の魅力向上をさせ、中川運河の再生を推進していく必要があるため。	水環境の改善や護岸の老朽化対策等を進めるとともに、回遊性向上に向けたプロムナード整備については、関係者との調整を踏まえ、推進していく必要がある。	引き続き、覆砂、老朽化した護岸の改良、視点場およびプロムナードの整備を進めていく。		
					1工程	2工程	3工程	3工程									
					213,792千円	205,793千円	395,535千円	1,041,446千円								5年度完了	

4. ACTION(課題・5年度以降の取組方針)

(2) 施策4

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	成果目標	4年度に取り組んだ内容	元年度	2年度	3年度	4年度	目標値 (5年度)	4年度 の状況	4年度実施事業に基づく評価結果			課題	5年度以降の取組方針		
					上段: 成果目標 目標値						目標値を上回る	5年度以降の方向性				・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等	
					中段: 成果目標 実績値							継続	成果				コスト
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)												
施04 事01	名古屋港のPR (広報・にぎわい振興担当)	SNS投稿へのいいね等の数 【単年度管理型】	SNS投稿へのいいね等の数	帆船(1隻)および汽船(3隻)の誘致、「海の日名古屋みなと祭」開催に代わる「サプライズ花火」および「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(15回)の製作、ホームページおよびSNS(Facebook、Instagram、Twitter、YouTube)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなと体験ツアー」(13回)・PRイベントの実施や民間活力による花火イベントの調整協力を行った。帆船・汽船の一般公開および「海の日名古屋みなと祭」開催への協力は、感染症の影響により実施できなかった。	17,000件	23,000件	24,000件	37,000件	38,500件	目標値を上回る	継続	取組および資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	取組を継続し、目標達成を目指すことから「維持」とする。	利用者にとって、分かりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要である。	情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていく。		
					22,900件	21,881件	30,115件	40,083件									
					145,858千円	114,055千円	129,693千円	131,374千円									

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	成果目標	4年度に取り組んだ内容	元年度	2年度	3年度	4年度	目標値 (5年度)	4年度 の状況	4年度実施事業に基づく評価結果			課題	5年度以降の取組方針	
					上段: 成果目標 目標値						目標値 (5年度)	5年度以降の方向性				・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等
					中段: 成果目標 実績値							成果	コスト			
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)											
施04 事02	名古屋港水族館の振興 (水族館事業担当)	入館者数 【単年度管理型】	入館者数	感染症対策を実施しながら、開館30周年を記念したさまざまなイベントを開催するなどPRを行った結果、3年ぶりに入館者数は200万人を超えた。そのため、令和2年度、3年度は、施設の維持に必要な経費を補うため指定管理料を支出したが、令和4年度は指定管理料の支出をせず、指定管理者(公益財団法人名古屋みなと振興財団)より納付金77,783千円が納付された。特別展については、開館30周年に合わせて過去30年間のうち好評であった5つの展示をダイジェスト版で再現した。また、新しい試みとして開館前の生き物の様子を見たり食事が楽しめる「水族館deモーニング」を開催した。クラウドファンディングの実施や市内観光施設、地元企業等と連携するなど、水族館のPRに取り組んだ。名古屋港水族館中長期計画基礎調査(その2)を委託し、調査結果を取りまとめた。施設の老朽化の状況を踏まえ、大規模補修の内容、時期、効果等について、愛知県、名古屋市と連携し検討した。	220万人	220万人	225万人	225万人	230万人	目標値をやや下回る	継続	拡大	拡大	感染症の影響により「目標値をやや下回る」結果となり、海洋文化の普及を図り、イベントの開催や積極的なPRにより、入館者数を増加する必要があるため成果は「拡大」とする。大規模補修を見据え委託調査を実施する必要があるため、コストは「拡大」とする。	入館者数の増加策や財源確保の方策を検討していくとともに、水族館を広く一般の利用者に対して継続してPRしていく必要がある。社会教育施設として種の保存、調査・研究についても継続して実施していく必要がある。施設の老朽化を踏まえた大規模補修のあり方や進め方について、愛知県、名古屋市と連携するとともに、有識者からも意見を聞きながら進めていく必要がある。	入館者数増加、収入増加の方策を財団と連携して取り組むとともに、生き物の調査研究としてNOAA(アメリカ海洋大気庁)と共同で気候変動等がアカウミガメに与える影響調査などにも積極的に取り組んでいく。事業運営計画(中長期計画)策定、施設の老朽化を踏まえた大規模補修や機能強化のあり方や進め方について、有識者などから意見を聞き、組織全体で取り組んでいく。
施04 事03	金城ふ頭における交流拠点 開発の円滑な推進 (金城・中川・南5区担当)	港湾関係者等の意見に 対応した割合 【単年度管理型】	港湾関係者等の意見に 対応した割合	港湾関係者へ国際展示場新第1展示館やコンベンション施設および歩行者デッキの工事に関する月間工程の送付や旧第1展示館解体工事の概要説明をするとともに、大規模イベント時における交通対策等について、名古屋市と連携し、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行った。	100%	100%	100%	100%	100%	目標値どおり	継続	維持	維持	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、引き続き物流との共存を図りながら交流拠点開発を推進し、うるおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。	交流拠点開発は、物流機能への影響がないよう進めていく必要がある。	物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市や関係部署と連携し、大規模イベント時等の交通対策について、引き続き港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行っていく。
施04 事04	魅力ある港湾景観の形成 (環境担当)	カラー計画マニュアルとの 整合性率 【単年度管理型】	カラー計画マニュアルとの 整合性率	名古屋港カラー計画について4件の審査を行った。景観アドバイザー制度について4件の相談を受けた。歴史資源の維持管理マニュアルの作成作業を行った。名港トリトンの適正な管理を行った。	100%	100%	100%	100%	100%	目標値を下回る	継続	維持	維持	カラー計画との整合を図ったが、協力を得られた事業者は4件中1件だったため、整合率が下回ったことや、維持管理マニュアルの整理に時間を要したため、完成が令和5年5月となり「やや遅れ」となったが、今後も継続して、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要がある。引き続き目標達成を目指すため、成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。	引き続き新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者に説明していく必要がある。また、策定からカラー計画マニュアルは10年以上、景観基本計画については20年以上が経過しており、景観形成に関する環境変化に対応できるよう、計画内容を検証する必要がある。名港トリトンについて、まずは耐震補強工事後のライトアップの再開が円滑に進むよう調整を実施する必要がある。	事業者が新築・改築の手続きを行う際、カラー計画を認識する機会を増やすよう、検討・調整を進めていく。カラー計画マニュアルの内容を分析するなど、建築業界のトレンドと計画内容との乖離について検証を行っていく。
施04 事05	名古屋港ポートビルの管理・ 運営 (関連事業担当)	入館者数 【単年度管理型】	入館者数	感染症拡大防止対策を実施した上で、海事・海洋文化についての理解を深めるため、南極観測船ふじ、海洋博物館および展望室において、謎解きゲームと展示を組み合わせた参加型の特別展を開催した。また、広く一般を対象とした「南極教室」、「ボトルシップ製作講座」を開催するなど、海事に関する企画・展示を行い、海事に関する知識の普及に努めた。加えて、名古屋港ポートビルおよび南極観測船ふじのさらなる認知度向上を目指し、SNSへの投稿を、イベント情報のほか景観等も素材とし、情報発信の機会を増やすことに努めた。	46万人	46万人	47万人	47万人	48万人	目標値をやや下回る	継続	拡大	維持	海事に関する知識の普及については、継続実施する必要がある。感染症の影響により入館者数は「目標値をやや下回る」結果となり、感染症拡大前の水準に回復する必要があること、引き続きSNS等の活用に取り組み、より効率的に海事に関する知識の普及を図る必要があることから、成果は「拡大」とする。コストは「維持」とする。	感染症拡大前の水準から減少した入館者数を回復させ、海事に関する知識の普及に取り組んでいく必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、魅力的な展示等を通じてより多くの方に来館していただけるよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。
施04 事06	名古屋港湾会館の管理・運 営 (関連事業担当)	会議室の利用率 【単年度管理型】	会議室の利用率	感染症の拡大防止対策を実施した上で利用促進に努め、2,641件の利用があった。	33%	33%	34%	34%	35%	目標値を上回る	継続	維持	維持	港湾関係者をはじめとした利用者へ、会議室の提供を継続する必要があるため、なお、目標値は達成しているため、成果・コストは「維持」とする。	利用者のニーズに応えるとともに、さらなる利用率の向上に向けた取組を行っていく必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、イベントを実施するよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。
施04 事07	臨港緑地の管理・運営 (関連事業担当)	利用者数 【単年度管理型】	野球場、テニスコート、運動広場、サイクリングロード、マリンパーク(魚釣り含む)及びゴルフ場の利用者数	屋内施設に消毒用アルコールを設置する等の感染症防止対策を実施した上で、安全に利用できるよう臨港緑地の良好な管理を行いながら施設提供に努めた。	56.2万人	56.8万人	57.5万人	57.8万人	58万人	目標値を上回る	継続	維持	維持	港湾の緑地の整備運営は、港湾管理者の責務であり、運動施設・緑地等の管理・運営は港のにぎわいと憩いの空間の創出につながっていることから継続して実施する。目標値は達成しているため成果・コストは「維持」とする。	コロナ禍による屋外施設の利用の増加に落ち着きが見られてきていることから、各種イベント開催等により利用促進の取組を強化するとともに、効率的な施設の維持管理に努める必要がある。	引き続きモニタリング等を実施し、施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供に努めるとともに、イベントを実施することで多くの方に利用してもらえよう、指定管理者に対し指導・助言を行っていく。

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	成果目標	4年度に取り組んだ内容	元年度	2年度	3年度	4年度	目標値 (5年度)	4年度 の状況	4年度実施事業に基づく評価結果			課題	5年度以降の取組方針
					上段: 成果目標 目標値						成果	コスト	・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等		
					中段: 成果目標 実績値										
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)										
施04 事08	中川運河緑地(堀止地区)整備事業 (事業推進課)	整備面積 【進行管理型】	整備面積(ha)	水辺一体の緑地整備として、植栽等を行った。 名古屋市の土地区画整理事業の事業期間の延伸に伴い、事業完了年度を令和5年度に延伸した。	0.84ha	0.86ha	1.07ha	1.08ha	1.1ha	順調	維持	維持	人々が港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る必要があるため。	名古屋市の関連事業と連携して、引き続き、親水緑地の整備を進めていく。	
施04 事09	中川運河水質改善事業 (事業推進課)	事業の進捗状況 (全7工程) 【進行管理型】	①調査(H26) ②事業採択(H27) ③設計(松重ポンプ所改修)(H27~H28) ④吐水管設置(高度処理水活用)(H27~H29) ⑤松重ポンプ所改修(H29~)	松重ポンプ所の改修(新築工事、ポンプ設備工事、受変電設備工事、除塵設備工事)に着手した。	4工程	4工程	4工程	4工程	5工程	順調	維持	維持	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散策できる水環境の創出を図るため。	関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていく。また、松重ポンプ所改修後は放水量増加による効果を確認していく必要がある。	
施04 事10	海上交通ネットワークの形成 (金城・中川・南5区担当)	金城ふ頭小型桟橋整備の進捗状況 (全4工程) 【進行管理型】	①基本計画 ②基本設計(R1) ③実施設計(R2~) ④整備	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型桟橋の整備に係る関係者との調整を行うとともに、施工に着手した。	2工程	3工程	3工程	4工程	4工程	やや遅れ	維持	維持	工事の入札不調や新型コロナウイルス感染症の影響により事業進捗状況が「やや遅れ」となったが、利便性の向上を図りながら海上交通ネットワークの形成を進め、うるおいと魅力のある港湾空間の形成に向け、金城ふ頭小型桟橋整備を完了する必要があるため。	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型桟橋整備の完了を目指す。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していく必要がある。	
施04 事11	クルーズ船誘致の推進 (誘致推進課)	情報発信数 【単年度管理型】	クルーズ船情報等発信数	フェイスブック等のSNSを活用し、感染症禍においても継続的に運航された国内クルーズ船や入港が再開された外航クルーズ船の入港等について情報発信した。また、ホームページにてクルーズ船の入港予定のほか、クルーズ船に対する信頼や安心を回復するため、クルーズ船入港の際の名古屋港、国、関係団体および船社の感染症対策など、安全・安心の取組を県民・市民に対し情報発信した。船社に対しては、この地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行った。	10件	30件	33件	36件	40件	目標値を上回る	維持	維持	クルーズ船の入港状況の回復に伴い、港にぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を引き続き推進する必要があるため、5年度以降の方向性を「継続」とし、成果・コストともに「維持」とした。	3号岸壁改良工事に伴い、一般来港者の見学スペースに制限がかかる中で、適切な情報発信を行うことでトラブルを未然に防ぐ必要がある。また、感染症対策について、国等の動向を注視し適切な情報発信をしていく必要がある。	
施04 事12	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応 (誘致推進課)	受入対応に起因する事故件数 【単年度管理型】	受入対応に起因する事故件数	ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響により、国内クルーズ船の一部について2号岸壁や金城ふ頭での受入れとなり、外航クルーズ船について2号岸壁での受入れとなったが、安全で円滑な受入れを行った。また、国内クルーズ船は、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」により感染症対策を徹底し受入れを進め、外航クルーズ船は、同マニュアルを外航クルーズ船に対応したものに改訂して令和5年3月より受入れを再開した。	0件	0件	0件	0件	0件	目標値どおり	維持	維持	クルーズ船の受入対応を業務として遂行する上で、安全かつ円滑に取組むことが第一であるため「継続」とする。また事故を0件とすることから成果は「維持」とする。人件費の上昇や燃料費の高騰による設営費の増加があるものの、継続的にクルーズ船の受入れを行うために、1隻あたりの受入コストは「維持」とした。	人件費の上昇や燃料費の高騰、感染症対策費用の追加、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事に起因する受入費用の増加により、1隻あたりの受入コストが年々上昇しているため、乗客の安全、円滑な受入体制を確保しつつ、設営物の配置や感染症対策の見直し、歓迎行事等の精査など、受入費用削減について検討する必要がある。	

施策コスト(合計)	2,246,654千円	2,356,830千円	2,494,997千円
-----------	-------------	-------------	-------------

3. CHECK(成果目標の状況・4年度の取組内容など)

施策 成果目標	年度		元年度	2年度	3年度	4年度	目標値 [5年度]	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	実績等	実績						
交流施設の来場者数	目標値	人	754万	756万	768万	781万	800万	・令和4年度の交流施設の来場者数は、令和4年度の目標値と比べると下回った。これは、昨年度より続く感染症による外出自粛の影響が要因である。 ・成果目標、構成事務事業目標値については、感染症の消長の予測が困難であることから、据え置くこととする。
	実績	人	714万	320万	452万	656万		
クルーズ船入港隻数	(仮目標値)*	隻	45	50	55	60	60 ^注	既存受入環境の改善及び利便性の向上を図りながら、クルーズ需要の喚起及び寄港地としての魅力発信に取り組んだが感染症の影響により、我が国における外国籍クルーズ船の運航休止が続いたことから、令和4年度時点で60回の目標を達成することができなかった。
	実績	隻	26	7	16	27		

注:クルーズ船入港隻数は、4年度を目標年度としている。

※ 仮目標値 = 初期値(30年) + $\frac{\text{目標値(4年)} - \text{初期値(30年)}}{4年間}$ × 30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正・見直しが必要	「施04事04(魅力ある港湾景観の形成)」の名港トリートメントアップについては、ライトアップ設備のあり方について関係者と検討を開始したため、新たに検証項目として追加する必要がある。